

事例 2 3 単元「天皇・貴族が中心となった政治と文化」

「資料から読み解く ～奈良時代の人々の暮らし～」

社会 第1学年

能美市立辰口中学校

1 事例の概要

本校では、生徒がより意欲をもって臨める授業づくりを工夫してきた。これまで培ってきた道徳教育を軸とした基礎的な力を基盤とし、「基礎的な力をつけ、それを活用するための授業デザイン」という副題のもと、研究を進めてきた。理想的な「授業デザイン」とは、授業で身につけた知識・技能を、生活のいろいろな場面や課題解決へ活用する授業を行うことである。そして、そのことによって、生徒自身が自ら学ぼうという知的好奇心や意欲、自立心を育てる授業をめざした。

A-1 学校研究の概要

2 実践内容

(1) 単元の目標

- ・国家のしくみが整えられ、その後、天皇・貴族の政治が展開されたことに対する関心を高め、意欲的に追求しようとする。(関心・意欲・態度)
- ・聖徳太子の政治と大化の改新、律令国家の確立、摂関政治を通して歴史の流れと時代の特色を多面的・多角的に考察することができる。(思考・判断)
- ・国家が整えられていく課程を色々な資料から、適切に選択して活用するとともに、追求し考察した結果をまとめたり、説明したりすることができる。(資料活用の技能・表現)
- ・大陸の文化や制度を積極的に取り入れながら国家のしくみが整えられ、その後、天皇・貴族の政治が展開されたことを理解し、その知識を身につける。(知識・理解)

(2) 指導上の工夫点（視点）

「授業デザイン」を行う上で、①課題の工夫、②考える時間の保障、③話し合いの場の設定、④まとめ及び学習の振り返りという四つの段階を意識した授業づくりが求められている。そこで、この四つの視点に立ち、指導上の工夫点を述べる。

① 課題の工夫

本時の導入では、奈良時代の農民の暮らしはどのようなものだったのかという中心課題に迫るために、前時に学習した、班田収授法の内容や税制（租・調・庸）、兵制（衛士・防人）などについて再度確認し、考えたい課題につなげることで生徒の意欲化を図った。

② 考える時間の保障

話し合い活動を有意義なものにするためには、個人の意見を確立する時間、また、グループなどで意見交流する時間など、考える時間の保障が大変重要である。そこで、資料を読み取る時間を保障するために、前時に資料を配布し、一人ひとりが十分に考えを持つ時間を設定した。そのため、本時はグループ活動の時間が確保できた。

③ 話し合いの場の設定

今回は、意見交換を充分行わせたいと考え、4人という少ない人数での話し合い活動を行った。また、一人ひとりに司会・発表・まとめ・質問の役割をもたせ、グループみんなで課題にあたるという意識を持たせた。

④ まとめ及び学習の振り返り

子どもたちから出てきた発表内容をもとに、農民の生活の実際を本時のまとめとした。また、授業の最後には、自己評価カードを用い本時の学習を振り返る時間をとった。

B-1 授業デザインの視点

3 指導の実際

奈良時代の農民のくらしをつかもう	
ふ	2. 奈良時代の農民のくらしはどうであったのか。
か	資料A 木簡資料
め	資料B 戸籍(男女比の割合)
る	資料C 戸籍(「逃」の字の意味)
	資料D「貧窮問答歌」
	○グループ内討議をする。
	○グループでの意見をまとめる。

女の数が多いな。多分女人より男の人の方が兵役や労働が大変だからだ。

田や家などを捨てて逃げ出している人がいる。出挙によって、米を返すのが大変だからだと思う。

着るものもぼろぼろ、食べるものもない。家もたて穴住居で傾いている。何かとっても惨めで大変そうだ。

鯛農民が逃亡している。取り立てが厳しくて、逃げたんじゃないかな。「黒子」とあるのはなぜだろう。

C-1 指導案

C-2 ワークシート①

C-3 ワークシート②

4 成果と課題

(1) 成果

① 課題の工夫

前時の学習内容を振り返り、律令制度のもとでの農民の生活を再度確認することで、考えたくなる課題につなげることができ、生徒の意欲化が図れた。その中で、重要な歴史用語も確認することができた。

② 考える時間の保障

前時の最後に一人ひとりに課題を提示したことで、自分の考えをしっかりと持つことができた。そのため、本時ではグループ活動の時、それぞれが自分の意見を述べるだけでなく、他の人の意見も知識を持ったうえで聞くので、とてもわかりやすく議論も深まった。

③ 話し合いの場の設定

グループ学習では一人ひとりが役割をしっかりと果たし、お互いの意見を真剣に聞き、グループの意見をまとめていた。また、それぞれの考えを共有したことで、わからなかったことがわかったり、気がつかなかったことを発見したりでき、とても有意義であった。

④ まとめ及び学習

子どもたちはそれぞれの課題から、読み取ってほしい情報を正しく読み取り、きちんと発表することができた。子どもたちから出てきた意見が、そのまま農民の生活の厳しさ・苦しさを表していることから、具体的なイメージがもて、知識としてもしっかりと定着したようだ。

D-1 生徒のワークシート

D-2 生徒の自己評価カード

(2) 課題

グループでの話し合い活動では、お互いの意見を聞き思考を深めていくことができた。しかし、他のグループの発表を聞き、自分の学習課題以外から学ぶという活動では、多くの課題が残った。具体的には、お互いに質問したり感想を述べたりする時間の保障、発表の進め方、また、生徒たちの発表の仕方の工夫など、学び合う(共通理解)のための工夫が必要であった。生徒たちは資料から課題に対する答えを持ち、自分自身の言葉で発表していたのに、それをお互いの学びにつなげたり、学習のまとめたりすることができなかった。今後は、生徒たちが学び合うことの楽しさを実感できる学習課題を設定し、お互いに学び取った内容を共有できるような学習活動になるように実践を重ねていきたい。